

## 10月17日（水） 新社長就任記者会見 要旨

株式会社パロマ（愛知県名古屋市/代表取締役社長：小林弘明）は、本日14：00より、「平成三十一年一月一日付 株式会社パロマ 新社長就任記者会見」を、今池ガスビルで行いました。会見での主な発言は以下の通りです。



中島真也（2019年1月1日 代表取締役社長執行役員 就任予定）

- 創業107年の歴史ある会社で、創業家以外で初の社長となるため身の引き締まる思いです。
- 輸出も含めた日本国内事業の全責任を私が負い、小林新会長はグループ全体を俯瞰した成長戦略に注力します。
- 社会に開かれた企業を目指した社内改革により、積極的な情報開示や、お客さまの声をよくお聞きし、製品やサービスに活かす活動を推進し、2007年には362億円まで落ち込んでいた国内売上は、直近では519億円にまで回復してきました。
- 今後の経営方針としても、引き続きお客さまの声（Voice Of Customer：VOC）をベースとしていきます。
- 企業の財産である従業員、“人財”の育成に注力します。それぞれの職場で、より付加価値の高い仕事へと取り組めるよう、環境整備を進めて参ります。
- お客さまの困りごと、悩み事を解決する製品・サービスの提供に向け、失敗を恐れず挑戦していく文化や、失敗も許容し更なる挑戦を続けていく企業文化の醸成に注力して参ります。

- 開発、製造、販売、サービス各部門の連携、グローバルでの各国との連携など、それぞれの強みを活かしたシナジーを目指します。開発、生産技術、製造技術、お客さまファーストの精神など、国内事業で培ったノウハウを活かしていきます。
- 国内事業に関して、新築住宅着工件数の減少など厳しい環境が予想される一方で、取替え市場は重要な位置づけと捉え、潜在的な取り換え需要の喚起に取り組んで参ります。例えば、製品の平均使用年数は、ビルトインコンロ、風呂付給湯器いずれも10年以上と長期に及んでいます。この期間の中で製品の利便性、お手入れ性、省エネ性は格段に進化しており、そうした情報の発信も積極的に行って参ります。一つの例として、ガスコンロのグリル調理容器は、まるでミニオーブのような活用方法ができると注目されています。こうした情報発信を積極的に行い、お客さまの生活の向上に役立つ製品の普及こそが、私たちの使命と考えます。
- 輸出事業に関しては、米国向けの瞬間湯沸器が好調です。米国の環境規制や生活様式の変化により、今後も需要は高まっていくと考えます。米国基準に適合する瞬間湯沸器の技術を持つのはグループ内ではパロマのみで、その強みを活かしてグループ内のシナジーを最大限発揮していきます。また、中国を含むアジア戦略においても、厨房機器・温水機器ともに十分チャンスがあると考えています。
- 新社長就任にあたっての抱負として、お客さまの声を傾聴する、ベテラン社員と若手社員の融合など、これまでの良いところは継続しつつ、企業がバナンスの強化など、見直すべきところは見直すメリハリをつけた改革を断行していきます。パロマの国内事業は非常に重要であり、開発、製造、販売、サービスいずれの分野にもこれまで以上に尽力して参ります。

丹羽利行（常務執行役員 社長室長）

- パロマは、毎日の生活に欠かせないガス機器をご提供するメーカーとして、お客さまから身近な企業でありたいと考えており、社会に開かれた会社、透明性のある会社を目指した取り組みを行って参りました。
- 創業107年の歴史の中で、4代にわたって創業家が社長を勤めてきました。オーナー経営の強みは中長期的な視点での経営や意思決定のスピードといわれています。他方、オーナーが経営に一生懸命取り組むがゆえに、周りが見えなくなる、従業員がオーナーの顔色だけを見るなど、社内の風通しが悪くなり、部門間の壁が出来るといった弱点が指摘されます。こうした心配事を先延ばしせず、新会長・新社長ともに若く、気力も体力もある今こそ、交代をする時期であると、数年来の話し合いを経て決定いたしました。
- お客さまに、より親しみを感じていただける企業となれるよう、また、グループの更なる発展に向けて全力で取り組んで参りたいと思います。

以上

本件に関するお問い合わせ先
---------------

株式会社パロマ 広報室 : 052-824-5251 (直通)
---------------------------------

内容は発表時のものです。ご覧になった時点で、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。